

スポーツイベント・レクリエーション（開催実績） 一覧表

鳥取県の海岸に面する自治体	主なスポーツイベント・レクリエーション	
岩美町	岩美キッズトライアスロン大会	
	山陰海岸ジオパーク 120km ウォーク in 因幡・但馬	
	浦富海岸ビーチバレー大会	
	浦富海岸ビーチクリーンCUP	
	浦富海岸ジオウォーク	
	浦富海岸健康マラソン大会	
	鳥取砂丘らっきょう花マラソン大会	
鳥取市	鳥取砂丘トライアスロン大会	
	山陰海岸ジオパーク 120km ウォーク in 因幡・但馬	
	鳥取砂丘サンドボードスクール	
	砂丘YOGA	
	ハングライダー	
	鳥取砂丘パラグライダー	
	ファットバイク	
	山陰海岸ジオパークトレイル	
	湯梨浜町	ハワイアンフェスティバル in ゆりはま
	北栄町	クロスカントリー大会
由良川下りイカダレース大会		
大山町	北栄町すいか・ながいも健康マラソン大会	
	大山町名和マラソンフェスタ	
米子市	全日本トライアスロン皆生大会	
	米子サイクルカーニバル in YODOE	
	寒中水泳大会 in 皆生温泉	
	Shelter チャリティーフェスティバル	
	SEA TO SUMMIT 皆生・大山大会	
日吉津村	米子市民レガッタ記念大会	
	SEA TO SUMMIT 皆生・大山大会	
境港市	Sun-in ビーチバレー大会	
	みなとウォーク	
	鬼太郎カップ境港駅伝競走大会	
	境港カニカニマラソン	
	境港さかな・妖怪ウォーク	
	境港ペーロン大会	
	境港ボートレース大会	
	境港市夕日ヶ丘の水辺で乾杯！	

沿岸市町村アンケート結果を基に鳥取県で作成

【更新】沿岸市町村へのアンケート結果を踏まえて資料更新

スポーツイベント・レクリエーション（開催実績） 一覧表

鳥取県の海岸に面する自治体	主なスポーツイベント・レクリエーション	
岩美町	岩美キッズトライアスロン大会	
	山陰海岸ジオパーク 120km ウォーク in 因幡・但馬	
	浦富海岸ビーチバレー大会	
	浦富海岸ビーチクリーンCUP	
	浦富海岸ジオウォーク	
	浦富海岸健康マラソン大会	
	鳥取砂丘らっきょう花マラソン大会	
鳥取市	鳥取砂丘トライアスロン大会	
	山陰海岸ジオパーク 120km ウォーク in 因幡・但馬	
	鳥取砂丘サンドボードスクール	
	砂丘YOGA	
	ハングライダー	
	鳥取砂丘パラグライダー	
	ファットバイク	
	山陰海岸ジオパークトレイル	
	湯梨浜町	ハワイアンフェスティバル in ゆりはま
	北栄町	ジュニアグラウンド・ゴルフ発祥地大会
グラウンド・ゴルフ国際大会		
大山町	クロスカントリー大会	
	由良川下りイカダレース大会	
米子市	北栄町すいか・ながいも健康マラソン大会	
	大山町名和マラソンフェスタ	
	全日本トライアスロン皆生大会	
	米子サイクルカーニバル in YODOE	
	WINTER SWIMMING in KAIKE（寒中水泳大会）	
日吉津村	Shelter チャリティーフェスティバル	
	SEA TO SUMMIT 皆生・大山大会	
境港市	米子市民レガッタ	
	中海オープンウォータースイム	
	シマノ・ジャパンカップ投釣り選手権 全国大会	
境港市	SEA TO SUMMIT 皆生・大山大会	
	Sun-in ビーチバレー大会	
	境港ペーロン大会	
境港市	境港ペーロン大会	
	境港ボートレース大会	

※沿岸市町村アンケート結果を基に鳥取県で作成

(2) 地域の行事や祭りに利用でき、人々がいきいきと暮らせる海岸づくりを進める

来訪者等の利便性向上はもとより、海にまつわる地域の行事や祭りなどにも活用することにより、地域住民がいきいきと生活し地域が活性化するように配慮した海岸づくりを進めるものとする。

(3) 利用マナー意識の向上と啓発活動に努める

海岸利用は近年、多様化、利用者の増加が進んでいるが、これに伴い、ゴミのポイ捨てなどの問題が発生している。今後、海岸を適正に利用していくうえで、「ゴミのポイ捨て禁止」を定めた環境美化の促進に関する条例の活用と併せて、規制やマナー向上などの啓発活動を進め対策を講じていくものとする。さらに、地域住民や海岸を訪れる多くの人達が、心地よく海岸に親しむとともに、海の生物など自然環境の保全の大切さを認識できるような美しく快適な海岸利用を図っていくために、利便施設の適切な管理、利用者のマナーの向上など、海岸利用のルールづくりについて、地元自治体や地域の人々と連携して啓発活動を進め、普及方策を検討の上、その展開に努める。

(2) 地域の行事や祭りに利用でき、人々がいきいきと暮らせる海岸づくりを進める

来訪者等の利便性向上はもとより、海にまつわる地域の行事や祭りなどにも活用することによって、地域住民がいきいきと生活し地域が活性化するように配慮した海岸づくりを進めるものとする。

(3) 利用マナー意識の向上と啓発活動に努める

海岸利用は近年、多様化、利用者の増加が進んでいるが、これに伴い、ゴミのポイ捨てなどの問題が発生している。今後、海岸を適正に利用していくうえで、「ゴミのポイ捨て禁止」を定めた環境美化の促進に関する条例の活用と併せて、規制やマナー向上などの啓発活動を進め対策を講じていくものとする。さらに、地域住民や海岸を訪れる多くの人達が、心地よく海岸に親しむとともに、海の生物など自然環境の保全の大切さを認識できるような美しく快適な海岸利用を図っていくために、利便施設の適切な管理や利用者マナーの向上に努めるとともに、海岸利用に関するルールの周知やマナー向上に向けて、地元自治体や地域の人々と連携した啓発活動を進め、普及方策を検討のうえ、その展開に努める。

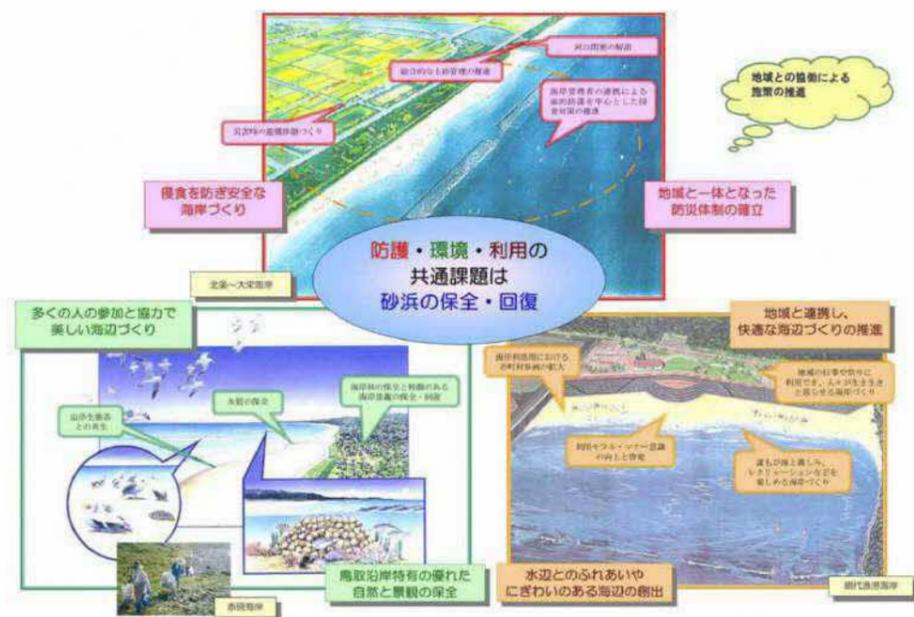
5. 沿岸の長期的な在り方

(1) 基本理念

■ 県民の財産である白砂青松の海岸を維持・回復し、次世代に継承していくことを目標として、歴史・文化により育まれた故郷を守り、人々がいきいきと暮らせる魅力ある海岸づくりを目指す。

海辺環境への関心や水辺に対するニーズが高まり、「防護」、「環境」、「利用」の三者が調和した海岸へのあり方が求められている。それに対して鳥取沿岸においては、豊かな自然環境を保全するのみならず、積極的に身近に親しめる水辺環境を創出し、白砂青松の海岸の回復を図るべく海岸保全を進めていくものとし、県民生活の健全な発展と国土の有効な利用を進めるため、海岸保全の目標を定めるものとする。なお、海岸保全の目標については、長期的な気候変動に伴う大幅な外力（潮位、波高等）の変化が見込まれる場合に防護水準の変更を行うなど、必要に応じて適宜見直しを行うこととする。

鳥取沿岸の「基本理念」を、次ページに設定する。



鳥取沿岸の基本理念

出典：鳥取沿岸の総合的な土砂管理ガイドライン(平成17年6月) 鳥取県

防護・環境・利用について、順応的・段階的に検討・見直しを行う新たな海岸保全へ転換していくことについて記載

5. 沿岸の長期的な在り方

(1) 基本理念

■ 県民の財産である白砂青松の海岸を維持・回復し、次世代に継承していくため、歴史・文化によって育まれた故郷を守り、人々がいきいきと暮らせる魅力ある海岸づくりを目指す。

海辺環境への関心や水辺に対するニーズが高まり、「防護」、「環境」、「利用」の三者が調和した海岸へのあり方が求められている。それに対して鳥取沿岸においては、豊かな自然環境を保全するのみならず、積極的に身近に親しめる水辺環境を創出し、白砂青松の海岸の回復を図るべく海岸保全を進めていくものとし、県民生活の健全な発展と国土の有効な利用を進めるため、海岸保全の目標を定めるものとする。なお、海岸保全の目標については、長期的な気候変動に伴う大幅な外力（潮位、波高等）の変化が見込まれる場合に、防護・環境・利用への影響について、順応的・段階的に検討・見直しを行う新たな海岸保全へ転換していくこととする。

鳥取沿岸の「基本理念」を、次ページに設定する。



鳥取沿岸の基本理念

出典：鳥取沿岸の総合的な土砂管理ガイドライン(平成17年6月) 鳥取県

【基本理念】

県民の財産である白砂青松の海岸を維持・回復し、次世代に継承していくことを目標として、歴史・文化により育まれた故郷を守り、人々がいきいきと暮らせる魅力ある海岸づくりを目指す。

防護・環境・利用の調和

キャッチフレーズ： <みんなで守り・創り・育てる海岸>

《海岸の防護》	
侵食を防ぎ安全な海岸づくりを進める	◎ 海岸の侵食に対して、限られた砂を総合的に管理していく観点に立ち、漂砂特性を十分考慮した上で人工リーフ等の面的防護方式を中心とした長期的な保全対策を図っていく。また、砂浜を保全・回復していくことで背後地の生活基盤を災害から守り、将来とも安心できる安全な海岸づくりを推進する。
地域と一体となった防災体制の確立を進める	◎ 災害発生時などの緊急対応のため、地域住民と行政が一体となって協力できる体制づくりや避難誘導、情報提供など、ソフト面を強化し安全性の向上に努めるものとする。
《環境の整備と保全》	
鳥取沿岸特有の優れた自然環境と景観の保全と回復を図る	◎ 雄大な砂丘や白砂青松、美しい夕日や漁り火、沿道海浜景観等の海岸景観など、鳥取県の海岸独自の風景を基調とした海岸景観や鳥取沿岸特有の優れた自然環境の保全と回復に努める。また、沿岸に分布する海浜植生や藻場等の生態系の保全に配慮するとともに、そこに暮らす人々の快適な生活環境の形成にも配慮し、人と自然が共生できる海岸づくりを進める。
多くの人の参加と協力で美しい浜辺づくりを進める	◎ 海岸のごみの清掃活動など地域住民やボランティアの参加・協力の体制づくりを進め、海岸の愛護を促す環境教育や人材の育成などを図り、美しい海辺づくりを進めていく。
《公衆の適正な利用》	
水辺とのふれあいやにぎわいのある海辺を創出する	◎ 地域の祭や行事などの利用、自然の体験や観察など多様な利用要請に応え、利便施設の整備、アクセスの改善やバリアフリー化により、水辺とふれあうことのできる親しみのある海辺や、様々なレクリエーションを楽しむことのできる海辺などを創出する。また、限りある海辺空間について自然環境との調和を図りつつ、人々の海岸利用の要請に応じていき、地域住民や来訪者がいきいきと過ごせる、地域に活力とにぎわいをもたらす海辺を創出していく。
地域と連携し快適な海辺づくりを推進する	◎ 海岸管理の市町村参画を拡大するなど地域と連携して、トイレやシャワー、ゴミ集積施設等の整備、管理を行っていくとともに、海岸利用者のモラルやマナーの向上を図るための適正な海岸利用のルールづくりや啓発活動などを推進していく。

⇒ 防護・環境・利用の共通課題は、砂浜の保全・回復

気候変動によって将来想定される事象に対する防護・環境・利用の対応を記載

【基本理念】

県民の財産である白砂青松の海岸を維持・回復し、次世代に継承していくため、歴史・文化によって育まれた故郷を守り、人々がいきいきと暮らせる魅力ある海岸づくりを目指す。

防護・環境・利用の調和

キャッチフレーズ： <みんなで守り・創り・育てる海岸>

《海岸の防護》	
侵食を防ぎ安全な海岸づくりを進める	◎ 気候変動による平均海面水位の上昇や波向きの変化等によって、海岸侵食がさらに進行する可能性があることが予測されている。 ◎ 海岸の侵食に対しては、海浜地形のモニタリングを行い、海岸利用や背後地の状況を踏まえ、対策箇所・区域の優先度を考慮しながら、養浜等の順応的な砂浜管理や総合土砂管理、離岸堤・人工リーフ等も含めた面的防護を推進し、砂浜を保全・回復していくことで背後地の生活基盤を災害から守り、将来とも安心できる安全な海岸づくりを進める。
地域と一体となった防災体制の確立を進める	◎ 災害発生時などの緊急対応のため、地域住民と行政が一体となって協力できる体制づくりや避難誘導、情報提供など、ソフト面を強化し安全性の向上に努めるものとする。
《環境の整備と保全》	
鳥取沿岸特有の優れた自然環境と景観の保全と回復を図る	◎ 雄大な砂丘や白砂青松、美しい夕日や漁り火、沿道海浜景観等の海岸景観など、鳥取県の海岸独自の風景を基調とした海岸景観や鳥取沿岸特有の優れた自然環境の保全と回復に努める。 ◎ また、沿岸に分布する海浜植生やブルーカーボン生態系として二酸化炭素を吸収する役割を有している藻場等の生態系の保全に配慮するとともに、そこに暮らす人々の快適な生活環境の形成にも配慮し、人と自然が共生できる海岸づくりを進める。
多くの人の参加と協力で美しい浜辺づくりを進める	◎ 海岸のごみの清掃活動など地域住民やボランティアの参加・協力の体制づくりを進め、海岸の愛護を促す環境教育や人材の育成などを図り、美しい海辺づくりを進めていく。
《公衆の適正な利用》	
水辺とのふれあいやにぎわいのある海辺を創出する	◎ 地域の祭や行事などの利用、自然の体験や観察など多様な利用要請に応え、利便施設の整備、アクセスの改善やバリアフリー化によって、水辺とふれあうことのできる親しみのある海辺や、様々なレクリエーションを楽しむことのできる海辺などを創出する。 ◎ また、気候変動によって砂浜が後退・消失し、海水浴場やマリンスポーツ等の体験活動の利用に影響を及ぼす可能性があるため、限りある海辺空間について自然環境との調和を図りつつ、人々の海岸利用の要請に応じていき、地域住民や来訪者がいきいきと過ごせる、地域に活力とにぎわいをもたらす海辺を創出していく。
地域と連携し快適な海辺づくりを推進する	◎ 海岸管理の市町村参画を拡大するなど地域と連携して、トイレやシャワー、ゴミ集積施設等の整備、管理を行っていくとともに、海岸利用者のモラルやマナーの向上を図るための適正な海岸利用のルールづくりや啓発活動などを推進していく。

⇒ 防護・環境・利用の共通課題は、砂浜の保全・回復

現行計画なし  
(新規追加のため)

ハード対策・ソフト対策を組み合わせた気候変動への適応策について記載

II. 海岸保全施設の整備に関する基本的な事項

1. 海岸保全施設の新設又は改良に関する事項

1.1 ハード対策・ソフト対策を組み合わせた気候変動への適応策

気候変動には不確実性があることから、段階的な防護水準を設定し段階的なハード対策を実施していくこととする。その際、ハード対策のみで防御できるレベルには限界があること、ハード対策の完了までには時間を要すること等を踏まえ、ハード対策・ソフト対策を適切に組み合わせ、背後地の資産を守ることをとする。

ハード対策・ソフト対策の検討にあたっては、社会経済状況や背後地の人口、社会インフラの整備状況、土地の利用状況等の将来変化について考慮する。また、組み合わせの検討にあたっては、外力の規模だけでなくその発生確率と発生する人的・経済的被害をかけた地域での災害リスクを定量化し、ハード対策・ソフト対策のそれぞれの特性について考慮する。そのうえで、避難や土地利用規制といったソフト対策と関連させ、堤防・護岸等のハード対策の防護水準を決定する。

ハード対策・ソフト対策について、今後の新たな知見や観測データの蓄積等も踏まえて点検し、適宜見直しを行っていく。

なお、気候変動による地形変化の将来予測については、不明確な部分が多く、平均海面水位や波高の上昇に加え、波向の変化による影響も想定されるため、今後の新たな知見や気象・海象や海浜地形のモニタリング等も踏まえ、継続的に検討を行っていくこととし、順応的な対策の検討を進めていくものとする。

【ハード対策】

- 気候変動の不確実性等を考慮し、段階的なハード対策を実施。
- 将来の施設改良等を考慮した手戻りのない構造、粘り強い堤防・護岸整備等を検討。
- 整備時期や防護水準（沖合施設、養浜なども含む）、実施箇所の優先順位を検討。
- 予防保全の観点から長寿命化計画等に基づく適切な施設の維持管理を実施。
- 堤防・護岸の嵩上げだけでなく、順応的砂浜管理（防護・順応・撤退）や総合土砂管理等も含めた面的防護を推進。

【ソフト対策】

- 施設のみで防御できるレベルには限界がありハード対策とソフト対策を適切に組み合わせ。
- 国と県と市町村がそれぞれの役割のもと密接に連携し、高潮浸水想定区域の指定、津波災害警戒区域の見直し、ハザードマップや避難計画の作成、土地利用規制も踏まえた防災まちづくり等の都市計画との調整等、総合的な対策を実施。
- 気候変動により海岸侵食が進行する場合、将来の海岸防護・利用・環境を持続的に確保するため、海浜地形のモニタリングを実施するとともに必要に応じて防護ラインの見直し(セットバック)を検討。

現行計画なし  
(新規追加のため)

気候変動を踏まえた海岸侵食、高潮・高波、津波に対する対策案（例）を記載

**河川区域**  
総合砂管理  
河口砂州

**山間部**  
ハザードマップの作成  
浸水リスクが低い地域への移転  
堤防・護岸の整備・高上げ  
砂浜  
離岸堤・人工リーフ整備・改良  
ハード対策(例) 皆生海岸(既設人工リーフ改良)

**浸水域**  
宅地の嵩上げ  
防護ラインの見直し(セットバック)  
突堤  
養浜等の順応的な砂浜管理  
継続的なモニタリングによる海浜地形の把握

**山間部**  
岩礁

**ソフト対策(例)**  
ハザードマップの作成・住民避難水害リスクを把握し、避難行動計画の支援。  
都市計画の変更  
水害リスクの高い地域から低い地域への移転の促進。宅地の嵩上げの実施。  
防護ラインの見直し(セットバック)  
高潮・高波による浸水被害や海岸侵食の防止・軽減、生物生息域やレクリエーション環境の創出。  
海浜地形のモニタリング  
グリーンレーザ測量や衛星画像を活用した海浜地形の把握

**ハード対策(例)**  
離岸堤・人工リーフの整備・改良  
高波浪を低減し、背後地への浸水被害の防止・軽減を図るとともに砂浜の保全を図る。  
堤防・護岸の整備・高上げ  
背後地への浸水被害の防止・軽減を図る。  
養浜等の順応的な砂浜管理  
海岸侵食の軽減。海岸景観や生物生息域の保全・レクリエーション環境の創出を図る。  
総合土砂管理  
山地から海岸までの土砂の流れの「連続性」の確保・回復を図る。

**ソフト対策(例) ハザードマップの作成**  
津波浸水想定区域図  
R7年撮影

出典:津波浸水想定図,鳥取県HP(平成30年3月)

気候変動を踏まえた海岸侵食、高潮・高波、津波に対する対策案（例）

## II. 海岸保全施設の整備に関する基本的な事項

### 1. 海岸保全施設の新設又は改良に関する事項

#### 1.1 海岸保全施設を新設又は改良しようとする区域

鳥取県の海岸は、砂浜を保全することを基本とする面的防護を実施する。海岸保全施設を新設又は改良を実施しようとする区域は、Iの2.1節の「防護の目標」を達成するために、整備が必要である海岸とする。

##### (1) 海岸侵食対策

鳥取沿岸全域における海岸侵食対策は、平成17年に策定した「鳥取沿岸の総合的な土砂管理ガイドライン」に基づく総合的な土砂管理によって行うことを基本としており、今後も継続することとするが、汀線測量や深浅測量等のモニタリング調査の結果、学識経験者等から構成される調整会議等での議論及び沿岸住民の意見を踏まえ、サンドリサイクルだけでは効果に限界がある場合について施設の新設及び改良の整備を行う。

現状において土砂を用いた整備を実施する区域は以下の3エリアとする。

- ・岩美海岸エリア
- ・千代川右岸エリア
- ・日野川左岸エリア

また、天神川周辺エリアなど、上記3エリア以外での地域についても引き続きモニタリング調査を継続し、海岸侵食の状況の分析をおこない、必要に応じて整備エリアの見直しを行う。



#### 1.2 海岸保全施設を新設又は改良しようとする区域

鳥取県の海岸は、砂浜を保全することを基本とする面的防護を実施する。海岸保全施設を新設又は改良を実施しようとする区域は、Iの2.1節の「防護の目標」を達成するために、整備が必要である海岸とする。

##### (1) 海岸侵食対策

鳥取沿岸全域における海岸侵食対策は、平成17年に策定した「鳥取沿岸の総合的な土砂管理ガイドライン」に基づく総合的な土砂管理によって行うことを基本としており、今後も継続することとするが、汀線測量や深浅測量等のモニタリング調査の結果、学識経験者等から構成される調整会議等での議論及び沿岸住民の意見を踏まえ、サンドリサイクルだけでは効果に限界がある場合については施設の新設及び改良の整備を行う。なお、施設の新設及び改良方法を選定する際には、海岸環境や利用状況を踏まえて選定することとする。

現状において整備を実施する区域は次の3エリアとする。

- ・岩美海岸エリア
- ・千代川右岸エリア
- ・日野川左岸エリア

また、天神川周辺エリアなど、上記3エリア以外での地域についても引き続き、海浜地形のモニタリング調査を継続し、海岸侵食の状況の分析を行い、必要に応じて整備エリアの見直しを行う。



【岩美海岸エリア（陸上地区）】

岩美海岸（陸上地区）の砂浜については、昭和50年代まではほぼ安定していたが、昭和59年頃から侵食が顕著となっている。東漁港防波堤建設・増築による遮蔽域形成等に伴い、ポケットビーチ内の漂砂バランスが不安定化したことが要因と考えられる。沿岸漂砂は通年で西向きが卓越しており、東浜海水浴場側は侵食傾向なのに対し、羽尾海水浴場側が堆積傾向にあることから、サンドリサイクルによる対応を行っている。近年は冬季風浪による局所的な浜崖の発生が問題となっており、令和元年度から埋設護岸の整備を行う浜崖後退抑止対策に着手している。



※鳥取県立博物館撮影航空写真を基に鳥取県作成  
岩美海岸（陸上地区）

【岩美海岸エリア（陸上地区）】

岩美海岸（陸上地区）の砂浜については、昭和50年代まではほぼ安定していたが、昭和59年頃から侵食が顕著となっている。東漁港防波堤建設・増築による遮蔽域形成等に伴い、ポケットビーチ内の漂砂バランスが不安定化したことが要因と考えられる。沿岸漂砂は通年で西向きが卓越しており、東浜海水浴場側は侵食傾向なのに対し、羽尾海水浴場側が堆積傾向にあることから、サンドリサイクルによる対応を行っている。近年は冬季風浪による局所的な浜崖の発生が問題となっており、令和元年度から埋設護岸の整備を行う浜崖後退抑止対策に着手している。



※鳥取県立博物館撮影航空写真を基に鳥取県作成  
岩美海岸（陸上地区）

【岩美海岸エリア（浦富地区）】

岩美海岸（浦富地区）の砂浜については、昭和50年代までは安定していたが、昭和50年代後半から侵食が顕著となった。田後港建設による遮蔽域形成等に伴い、ポケットビーチ内の漂砂バランスが不安定化したことが要因と考えられる。平成2年より人工リーフの整備を進めており、概成している東側人工リーフの背後は比較的安定化してきているが、整備中の西側人工リーフの背後は現状でも侵食傾向にあり、冬季風浪等による局所的な侵食が断続的に発生していることから、人工リーフの整備を推進するとともに、サンドリサイクルによる対応を行っている。

また、汀線付近に浜崖が発生し、護岸基礎を保護する消波ブロックが露出するなど、海水浴等の利用に影響を与えており、課題となっている。



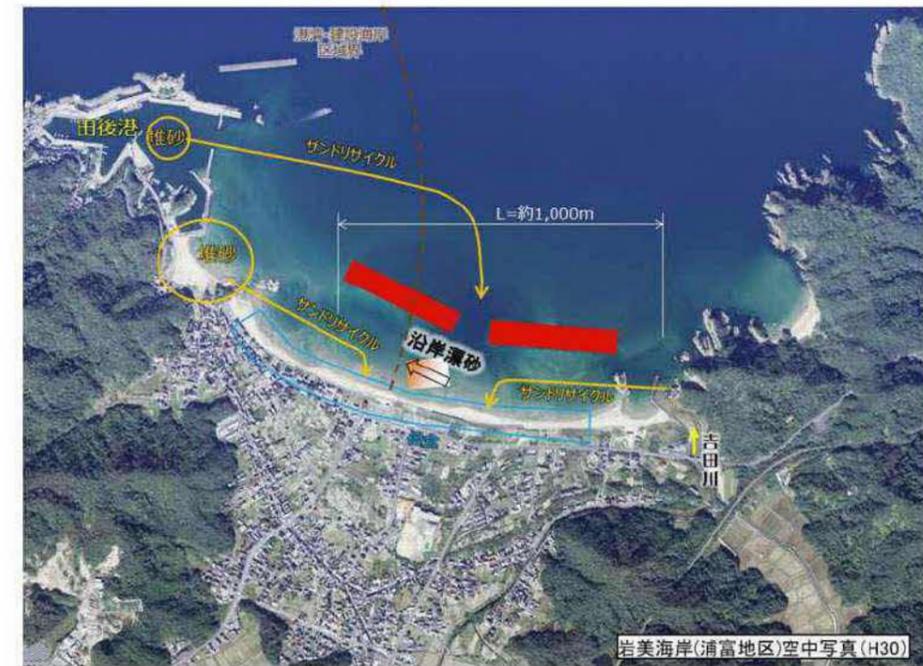
※鳥取県立博物館撮影航空写真を基に鳥取県作成

岩美海岸（浦富地区）

【岩美海岸エリア（浦富地区）】

岩美海岸（浦富地区）の砂浜については、昭和50年代までは安定していたが、昭和50年代後半から侵食が顕著となった。田後港建設による遮蔽域形成等に伴い、ポケットビーチ内の漂砂バランスが不安定化したことが要因と考えられる。平成2年から進めてきた人工リーフ整備は令和4年に完了し、海岸全体としては堆積傾向であるものの、人工リーフ開口部の岸側付近等で侵食傾向の箇所が確認されており、冬季風浪等による局所的な侵食も断続的に発生していることから、継続したサンドリサイクルとモニタリングを行っていく必要がある。

また、汀線付近に浜崖が発生し、護岸基礎を保護する消波ブロックが露出するなど、海水浴等の利用に影響を与えており、課題となっている。



※鳥取県立博物館撮影航空写真を基に鳥取県作成

岩美海岸（浦富地区）

【千代川右岸エリア（湯山地区）】

千代川右岸エリア（湯山地区）の侵食については、昭和50年代まではほぼ安定していたが、昭和50年後半から侵食が顕著となった。侵食の主な要因は千代川からの土砂供給の減少や鳥取港の防波堤の建設による遮蔽域形成等の要因が考えられる。土砂動態の特徴は、沿岸漂砂は東向きが卓越しているが、鳥取港及び千代川導流堤の影響による西向き沿岸漂砂が発生している。サンドリサイクル及び平成13年からの人工リーフ整備により、従前より安定傾向にあるが、冬季風浪による局所的な侵食が発生している。引き続き、サンドリサイクルによる砂浜の保全・回復を図る。



※鳥取県立博物館撮影航空写真を基に鳥取県作成

千代川右岸（湯山地区）

【千代川右岸エリア（湯山地区）】

千代川右岸エリア（湯山地区）の侵食については、昭和50年代まではほぼ安定していたが、昭和50年後半から侵食が顕著となった。侵食の主な要因は千代川からの土砂供給の減少や鳥取港の防波堤の建設による遮蔽域形成等の要因が考えられる。土砂動態の特徴は、沿岸漂砂は東向きが卓越しているが、鳥取港及び千代川導流堤の影響による西向き沿岸漂砂が発生している。サンドリサイクル及び平成13年からの人工リーフ整備によって、従前より安定傾向にあるが、冬季風浪による局所的な侵食が発生している。引き続き、サンドリサイクルによる砂浜の保全・回復を図る。



※鳥取県立博物館撮影航空写真を基に鳥取県作成

千代川右岸（湯山地区）